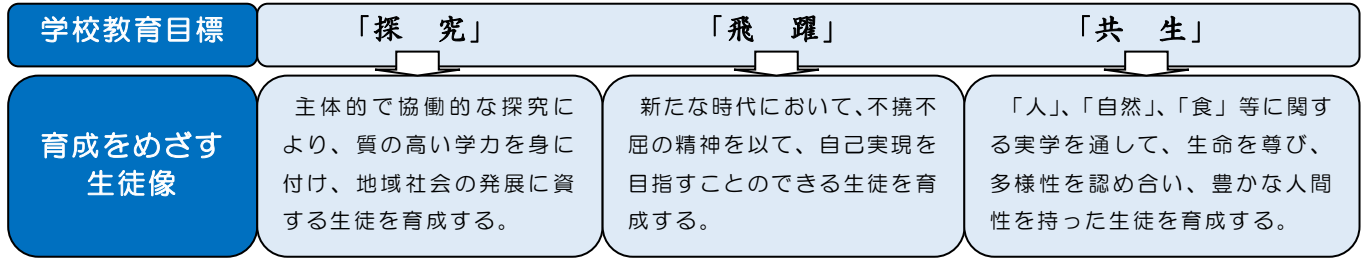


令和4年度 北海道標茶高等学校経営シラバス



年度の重点事項と自己評価の観点

○継続的重点 ●発展的重点

	重点事項	自己評価の観点
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○【基礎学力】授業における基礎・基本的内容の確実な定着 ○【主体的な学び】生徒の主体性を育む対話的で深い学びの推進 ○【学習習慣】生徒の自主的な学習習慣を身に付けさせる具体的な取組の継続 ●【ICT活用】授業におけるICTの活用推進 ●【新教育課程実施】新教育課程運用上の課題解決 	<ul style="list-style-type: none"> □社会で自立して生活する上で必要な基礎・基本的な学力を身に付けさせる取組を進めることができたか。 □生徒の主体性を育むために、各教科でAL(アクティブラーニング)の導入や評価の工夫に関する取組が進められたか。 □個別の課題やスタディサプリ等の学習機会を活用し、学習習慣の定着を促すことができたか。 ■端末一人一台端末を活用した授業方法を研究し、活用することができたか。 ■新教育課程表を円滑に運用し、多様な選択が可能な教育課程の実施上の課題を捉えた上で、改善を図ることができたか。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ●【情報活用指導】インターネット、SNS活用に係るルールやマナー指導の充実 ○【いじめ防止】いじめの未然防止、早期発見、早期対応によるいじめの撲滅 ○【支援的生徒指導】学習及び生活支援体制の確立と生徒・家庭支援の充実 ○【自律を促す指導】自己を律して生活できる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ■情報活用マナー等に関する啓発事業の実施と、効果的な事後指導を行うことができたか。 □いじめに至る前の人間関係にも配慮しながら、いじめの早期発見に努め、解決することができたか。 □定期的に生徒理解研修会を実施し、保護者や関係機関との連携により支援的な生徒指導と家庭教育の支援を行うことができたか。 □様々な指導において、その理由を明確に説明し、生徒自身の納得の上で自ら改善する姿勢を示させることができたか。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○【進路指導】生徒一人ひとりへのきめ細かな進路指導の実施 ○【キャリア教育・探究】「産業社会と人間」「地域探究」「課題探究」と教科指導の連携と全体計画の具現化 ○【コーディネート機能】キャリアガイダンス部による教育活動全体の調整と外部関係者との円滑な連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> □進学希望者には第一志望校への合格率の向上、就職希望者には職業理解に基づく就業後定着率の向上を図る指導ができたか。また、進路希望未定者に対して、個別に丁寧な支援を行うことができたか。 □「産業社会」から「地域探究」、「課題探究」への系統性を生徒に理解させ、キャリア教育の充実が図られたか。また、「地域・課題探究」では指導方法の工夫等により探究性の深化を図り、生徒の達成感を得ることができたか。 □CG部が教務部等と連携し、系列・教科・分掌等に対して積極的にコーディネートするとともに効果的な事業改善を図ることができたか。
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ○【生徒理解】生徒状況に関する情報共有、教育相談週間等の実施による生徒理解の推進 ○【命を守る教育】防犯・防災教室、薬物乱用防止等の健康安全講習、及び交通安全教育の充実と通学路の安全確保 ○【危機管理能力】教科・分掌・委員会等における生徒の危機管理能力の育成 ●新型コロナウィルス感染症の拡大防止 	<ul style="list-style-type: none"> □生徒に関する情報共有が図られ、特に困り感を持つ生徒への生徒指導・特別支援・教科指導等に反映することができたか。 □心身の健康・安全に関する講習会等を実施し、生徒の健康に関する安全意識を高めることができたか。 □災害、犯罪等に係る安全教育があらゆる場面で実施され、生徒の危機管理に係る適切な判断力と行動力を養うことができたか。 ■コロナ感染症拡大防止策が適切に実施されるとともに、ウィズコロナの観点から事業実施の工夫や生徒の学力保証が図られたか。
信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○【危機管理】学校安全危機管理委員会による安全管理全般に関する管理監督の徹底 ●【地域連携】本校の資産を活用した地域貢献と地域連携の推進。 ●【働き方改革】働き方改革における業務改善と合理化及び分業、意識改革の推進。 ●【広報】本校教育活動の外部へのPRの推進 	<ul style="list-style-type: none"> □「緊急時対応マニュアル」による危機管理研修を実施し、特に実習時の安全対策と危険箇所の早期発見を行うことができたか。 ■本校の教育資産を活用して、地域の方との交流を充実させるとともに、特に異校種学校とも連携し、地域を支援・活性化することができたか。 ■生徒、保護者、地域の理解の下、業務の改善と合理化・分業化、ワークライフバランスの意識改革等、無理なく働き方改革が促され、職員の月超過勤務時間を45時間以内にする事ができたか。 ■広報において、特に町内外の中学校へのPRが推進されたか。
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ○【組織体制】各種事業・行事の適切な教育課程への反映と、組織的な分業体制の構築 ○【会議等】各種会議、打ち合わせの効果的な実施と学校運営への参画 ●【事業検証】分掌・系列・年次を中心とした事業の推進とスクラップアンドビルド 	<ul style="list-style-type: none"> □各事業の目的を教職員全体で共有し、部長主任、担任等への業務の集中化を防ぐ分業体制は推進されたか。 □会議、打合せ等は積極的かつ建設的に行われ、発案された議案が民主的に議論され、職員会議において共通理解が図られているか。 ■校内事業が分掌内で検討され、校務運営委員会の調整機能により、その効果を見極めて全体の見直しが行われたか。
教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ●【全体研修】有用な全体研修会の設定と実施。 ●【新学習指導要領実施に係る研修】教科指導、系列事業に係る校内研修機会の設定と活用 ●【ICT研修】ICT活用に係る組織研修と自己研修の推進。 ○【服務規律】継続的な服務管理と内部けん制の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■研修を調整する部署を明確にし、有用な研修テーマを設定、計画的かつ効果的な方法で全体研修会を実施できたか。 ■新学習指導要領に基づく教育活動の実施における、教科や系列等での学習指導や評価方法についての研修が行われ、改善されたか。 ■ICTの活用に係る組織的な研修や自己研鑽を行い、ICT活用能力の向上が見られたか。 □教育公務員として高い倫理観と服務規律遵守の意識を持続し、同僚性により啓発し合うことができたか。